

気軽に散歩 （香川県・高松）

香川県の県庁所在地である高松市は、四国で2番目の人口約42万人を誇る。瀬戸内海に面し、古くから年間を通して寒暖の差が少なく、降水量の少ない気候が特徴だ。

まずはJR高松駅からすぐそばの高松港周辺を散策することに。港を眺めていると、高松と瀬戸内の島々を結ぶフェリーが次々とやってきては、目を楽しませてくれる。発着する船をしばらく観察した後で、商業施設・北浜アリーナへ向かう。ここは、かつて高松港を経由する貨物の一時保管所として利用されていた倉庫を改装して、平成12年に造られた。地元・香川の食材を使ったレストランやカフェ・雑貨店など個性的な店がそろそろ。古い倉庫を使っているが、しゃれた店舗が入りモダンな雰囲気。そのためか、地元の若者らしい買い物客の姿が見られる。

高松港の眺めを楽しんだところで、栗林公園に向かうことに。この栗林公園は1625年頃に讃岐国領主である生駒高俊が原型を造った。その後、水戸黄門の兄にあたる松平頼重が造園を引き継ぎ、その100年以上後の延享2（1745）年に完成した。昭和28（1953）年に国の特別名勝に指定された。市内随一の観光地だけあり、猛暑にもかかわらず多くの人が訪れていた。大きなカメラをさげた外国人観光客の姿も多い。

門をくぐると、目の前に青々とした芝生が広がる。その緑の濃さに圧倒されつつも、ゆっくりと歩を進める。すぐに大きな池が現れた。園内には大小6つの池があり、その周辺にはハスやショウブ、ツツジなどさまざまな植物が顔を揃える。また、最大の南湖(なんこ)では、舟遊びをすることもできる。

南湖の次に大きい北湖の周りを歩いていると、かやぶきの茶室が。そばには「日暮亭」との立札があった。江戸時代に茶屋があった場所に、明治31（1898）年に再建されたとのこと。モミジの黄緑が爽やかな中に、茶色のかやぶきが落ち着いた印象。残念ながらこの日は休みだったため、再び歩き出すことに。

池のほとりにまた一つ茶屋を見つけたので、今度こそ入ってみる。この掬月亭は江戸時代初期に建てられ、園内の数ある茶屋の中で最大の建物。入口で抹茶を注文して中へ入る。畳の上に正座をして注文の品が来るのを待つ。開け放たれた縁側から鮮やかな緑が見え、清々しい。ほど良い甘さの栗の菓子と抹茶をいただき、暑さに負けそうだった体も癒された。瀬戸内を走る船たちや美しい庭園など、穏やかな景色があふれる街・高松。訪れた際には、その暖かな雰囲気をゆったりと味わってほしい。

「海員だより」